

省力樹形団地で守る伝統のなし産地

省力樹形

団地・平地化

担い手確保

水田転換

- 取組者：JA鳥取中央
- 所在地：鳥取県湯梨浜町
- 問合せ先：湯梨浜サテライトセンター果実園芸課（0858-48-6513）
東郷梨選果場（0858-32-2112）

活用した国の事業：農地耕作条件改善事業



【取組概要】

・高齢化による生産者の減少が進行し担い手が不足。また、山間部の園地は園道が細く、急斜面で作業性が悪い。

・担い手参入を促すため、JAが主体となり、水田転換や既存園のリノベーションによりジョイント網掛け栽培のなし団地を整備し、産地の団地化・平地化により担い手の育成を実現。

・生産者負担を最小限にするため、国・県・町の事業を最大限活用（生産者負担を約500～1000万円/10a※→100万円/10a程度とする）。※取組内容によって変動。

・整備した団地をモデルとして、規模拡大を希望する生産者に平地でのジョイント栽培を提案し普及することで、更なる担い手の確保と産地のなし生産力の向上を目指す。

【整備内容】



ジョイント栽培の園地の様子



接合部



網掛けされた園地の様子

- ・ジョイント栽培により、受粉作業や枝管理、袋掛け等の作業性を向上。果樹棚が高いため、乗用SS等の機械を使用でき、草刈りや肥料散布も省力化。
- ・植付け後3年目に収穫可能で、未収益期間が短縮。
- ・網掛けにより害虫の被害が軽減されるため、新甘泉などの赤梨品種は袋掛け不要。

【苦労】

ジョイント栽培導入当初、品種の違いにより、他県の栽培方法では収量が得られなかった。

【工夫】

品種の特性(結果位置の違い)※を踏まえた剪定方法を研究し変更。

※例えば新甘泉は結果枝の先端に結果するが、二十世紀梨は基部にも結果するなどの違いがある。

★JAは、離農園地を、新規就農者や規模拡大を希望する生産者に引き継ぐこととしている。

しかし、離農と園地継承のタイミングが合わないと、伐採されたり、園地が荒廃するため、離農する生産者から事前連絡をもらうことで、園地の確保と耕作放棄の防止を図っている。

【今後の展望】

今後は、ジョイント栽培の普及と高単価な品種である新甘泉（鳥取県開発品種）の導入により、生産者の収入を確保することで「なしは儲かる」との意識付けをし、二十世紀梨に取組を波及させ、「伝統の二十世紀梨」を守り続けつつ担い手の増加を目指す。

団地の生産者に聞いてみました

<水田転換の整備団地における取組事例>

- ・整備団地では、JA職員や親元（退職）就農者、1ターン新規就農者等幅広い層の計8名の生産者が隣り合った園地で栽培している。
- ・生産者同士がSNSで繋がり、栽培情報を随時共有・相談している。
- ・果樹棚の整備と併せて、団地でユンボや乗用モア、SS等を導入し、共同利用している。
- ・団地内で決めた防除担当者（若手）が作業受託し、乗用SSを用いて全園を一斉防除している。



・機械を共同利用しているため、初期費用が削減された。

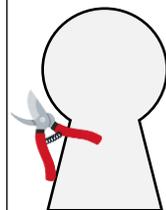
・防除担当が全園を一斉防除するため、適期作業が可能になったほか、管理作業に集中でき、楽になった。

・わからないことがあれば、すぐ近くのベテランの生産者にアドバイスをもらうことができ、心強い。

・SNSで病害虫発生等の情報が共有され、安心。

・水田転換した園地は水はけが悪いため、暗渠の設置や土づくりで対応。

【ジョイント栽培】



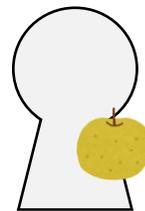
・樹形が直線的で単純なため、剪定・整枝がわかりやすく、作業員による授粉作業と袋掛け等の作業性が向上した。

- ・作業員への指示が簡単になった。
- ・授粉作業時の花の見逃しがなくなった。
- ・初心者による袋掛けが50枚/日→800枚/日になった例もある。

・果樹棚が高いため、乗用SS等の機械を使用でき、草刈り、肥料散布等の作業も楽で作業員からも好評。

・今後の規模拡大や改植でもジョイント栽培をしたい。

【網掛け】



・網掛けにより、カラスやカメムシの被害がかなり軽減された。

・害虫の侵入が少ないため、新甘泉（赤梨）の無袋栽培が可能になり、果実の様子も一目でわかるようになった。